

## List of exhibits

No	Title	Artist	Period / Century	Material	Collection
1	Assorted Paintings of Sengai's World	Sengai Gibon	Japan, dated (1750-1837)	ink on paper	
2	Bodhisattva Monju	Sengai Gibon	Japan, dated (1750-1837)	ink on paper	Konishi Collection
3	Dove-Shaped Incense Container	Sengai Gibon	Japan, 19th century (1750-1837)	pottery	Konishi Collection
4	First half Circle	Sengai Gibon	Japan, 19th century (1750-1837)	ink on paper	Konishi Collection
5	Last half Circle	Sengai Gibon	Japan, 19th century (1750-1837)	ink on paper	Ishimura Collection
6	Priest Xian-zi	Sengai Gibon	Japan, dated (1750-1837)	ink on paper	Miyake Collection
7	Calligraphy	Sengai Gibon	Japan, dated (1750-1837)	ink on paper	School of Letters, Kyushu University (Formerly owned by Dr. NAKAYAMA Morihiko)
8	Love of Cat	Sengai Gibon	Japan, 19th century (1750-1837)	ink on paper	School of Letters, Kyushu University (Formerly owned by Dr. NAKAYAMA Morihiko)
9	First half Dog	Sengai Gibon	Japan, 19th century (1750-1837)	ink on paper	Ishimura Collection
10	Last half Dogs	Sengai Gibon	Japan, 19th century (1750-1837)	ink on paper	Konishi Collection
11	First half Hotei, the God of Fortune, Pointing to the Moon	Sengai Gibon	Japan, 19th century (1750-1837)	ink on paper	Ishimura Collection
12	Last half Hotei, the God of Fortune	Sengai Gibon	Japan, 19th century (1750-1837)	ink on paper	Ishimura Collection
13	Portrait of Sengai Gibon	Yamasaki Choun	Japan, dated (1867-1954)	color on wood	School of Letters, Kyushu University (Formerly owned by Dr. NAKAYAMA Morihiko)

- “First half” on view 9/1-10/11. “Last half” on view 10/13-11/15.
- Works on display may change without notice.

# 仙厓展 仙厓ブームをたどる

会期 2020年9月1日(火)-11月15日(日)

会場 古美術企画展示室



出品No.6 仙厓義梵 蝋子和尚図

仙厓義梵（1750–1837）は、江戸時代に活躍した臨済宗の僧侶です。美濃（現在の岐阜県）に生まれた仙厓は、数えで40歳の時に日本最初の禅寺、聖福寺の住職に就任し、生涯博多の地で暮らし続けました。

親しみやすさの中にも人生訓や処世術が込められた仙厓の書画は大いに人気を博し、彼の死後も度々ブームを巻き起こしました。

本展では、そのいくつかを取り上げ作品とともに紹介することで、仙厓がいまなお愛される理由の一端に迫ります。

## 1920～30年代 福博のコレクターの必需品

親しみやすさの中にも人生訓や処世術が込められた仙厓の書画は、在世中より大いに人気を博し、彼が暮らす虚白院には、揮毫を求める人々が絶えなかったといわれています。

こうした背景もあって、仙厓の書画は彼と縁の深い聖福寺や虚白院よりも、むしろ、市井の人々の間に多く伝わっています。とりわけ、仙厓の第二の故郷である福岡・博多では多くの個人コレクションが形成されたほか、仙厓を顕彰する団体も組織されました。

特に仙厓三昧会（以下、三昧会）は、断片的ながらも実態が把握できる注目すべき存在です。活動内容は、仙厓作品のカタログや、ポストカードを制作するなどが主だったようですが、今日、この三昧会の名を知らしめているのは「仙厓和尚遺墨展覧会」（1935年5月）を主催したことです。

展覧会のリストに記載される、出品者の顔ぶれを眺めてみると、伊藤伝右衛門・石橋正二郎といった実業家に加えて、山崎朝雲・富田溪仙・児島善三郎といった美術家たちの名前もみいだされ、まさに福博の経済人・文化人のオールスターともいべき錚々たる顔ぶれが並んでいます。彼らにとって、仙厓作品はコレクションに加えておくべき必須のレパートリーであったようです。三昧会主催の遺墨展に出品された作品は多くが現在所在不明になっていますが、いくつかは縁あって当館の所蔵となっています（作品1～3）。これらの作品を通して私たちは当時の仙厓ブームの熱気を感じることができます。

## 1950～60年代 仙厓は前衛作家？

1961年、Exposition itinérante de Sengai en Europe（以下、仙厓西欧展）と題する展覧会がローマで開幕しました。本展は、仙厓作品の大コレクターである出光佐三のコレクションから80点を精選して紹介したもので、ヨーロッパ11カ国、14都市を3年かけて巡回し各地で好評を博しました。

日本ですら仙厓作品の評価が定まっていない中、ヨーロッパにおいてこれほど大規模な展覧会が開催されたのは異例のことです。その背景には1950年代を中心に欧米で起こった禅思想への関心の高まりがあつたようですが、仙厓西欧展をめぐる評論を眺めると、別の理由もみえてきます。

当時の評論から特に注目を集めた仙厓作品の特徴を拾い上げてみると、①記号をモチーフとした作品②極端にデフォルメされた人物③身体の動きを感じさせるような筆勢あふれる書、などがあります。対象をリアルに再現することを良とする芸術觀が崩れ、様々な表現が模索されていた当時にあって、これら仙厓の作品は極めて前衛的な試みとして識者の目には映ったらしく、マチスやゴヤに匹敵する偉大な芸術家と述べる批評家もいたほどです。

それでは、具体的にはどのような作品が評価された

のでしょうか？仙厓西欧展の出品作ではありませんが、当館の所蔵品及び寄託品からもその手掛かりになる作品はいくつかあげることができます。①であれば《円相図》（作品4,5）、②では、《観音和尚図》（作品6）、③では《養幻身》（作品7）といった作品を想像しておけば、大きな誤りはないと思います。

## 2000年代～ 「ゆるキャラ」の元祖。仙厓

日本美術に「ゆるい」「かわいい」（以下、「ゆるかわ」）という言葉が用いられるようになったのはいつからでしょう？はっきりとは分かりませんが、おそらく「ゆるキャラ」が定着し始めた2000年代のことだと考えられます。「ゆるキャラ」の提唱者であるみうらじゅんによると、あるキャラクターが「ゆるキャラ」と認められるには、①郷土愛に満ち溢れた強いメッセージ性があること②立ち居振る舞いが不安定かつユニークであること③愛すべき、ゆるさ、を持ち合わせていること、という3つの条件を満たす必要があるそうです。

作品8～12は、これら全ての条件を満たしていることに気が付きます（①が微妙ですが、「博多の仙厓さん」の作品なのでぎりぎりOKとします）。仙厓の作品が雑誌などで「ゆるキャラ」の元祖、と評されるのも納得できるところです。

仙厓作品における「ゆるかわ」の位置づけをここで詳述する余裕はありませんが、仙厓が「ゆるかわ」の要素を極めて自覚的に作品に取り入れていたことはあきらかです。というのも、仙厓作品にこうした要素がみられるのは晩年にあたる70代半ば以降のこと。すなわち、「ゆるかわ」の作品群は40年以上に及ぶ仙厓の画業の到達点の1つといえるのです。

## おわりに

以上、いくつかの仙厓ブームに注目することで仙厓の作品がどのように評価されたのかをたどりました。

作家や作品の評価が時代とともに変化するのは当然のことですが、ある時は前衛作家と並び称され、またある時は「ゆるキャラ」の元祖と呼ばれる。これほどまでに振れ幅の大きい人物は珍しいでしょう。

このような幅広さこそが仙厓作品の特徴であり、時代を越えて愛される最大の理由なのだと思います。

## 参考

- 竹本忠雄「東と西のあわいに—仙厓西欧展をかえりみて」『墨美』151号、1965年
- 秋月高太郎「ゆるキャラ論序説」『尚絅学院大学紀要』60号、2010年
- 岡野嘉子「禅画とヨーロッパ—1960年前後の展覧会をめぐって—」『仏教美術論集 第7巻』竹林舎、2014年
- 矢島新『ゆるかわ日本美術史』祥伝社、2019年

・前期の記載がある作品は、9月1日（火）～10月11日（日）まで、後期の記載がある作品は、10月13日（火）～11月15日（日）までの展示です。  
・都合により展示作品を変更することがあります。

## 出品作品リスト

No	作品名	作者名・産地	時代・世紀	品質	所蔵
1	仙厓曼荼羅図	仙厓義梵 (1750-1837)	江戸時代 文政2年(1819)	紙本墨画	
2	文殊菩薩図	仙厓義梵 (1750-1837)	江戸時代 文化11年(1814)	紙本墨画	小西コレクション
3	鳩形香合	仙厓義梵 (1750-1837)	江戸時代 19世紀	陶器	小西コレクション
4	前期 円相図	仙厓義梵 (1750-1837)	江戸時代 19世紀	紙本墨画	小西コレクション
5	後期 円相図	仙厓義梵 (1750-1837)	江戸時代 19世紀	紙本墨画	石村コレクション
6	観音和尚像	仙厓義梵 (1750-1837)	江戸時代 文政3年(1820)	紙本墨画	三宅コレクション
7	養幻身	仙厓義梵 (1750-1837)	江戸時代 文化8年(1811)	紙本墨書	九州大学文学部蔵 (中山森彦旧蔵)
8	猫の恋図	仙厓義梵 (1750-1837)	江戸時代 19世紀	紙本墨画	九州大学文学部蔵 (中山森彦旧蔵)
9	前期 犬図	仙厓義梵 (1750-1837)	江戸時代 19世紀	紙本墨画	石村コレクション
10	後期 双狗図	仙厓義梵 (1750-1837)	江戸時代 19世紀	紙本墨画	小西コレクション
11	前期 指月布袋図	仙厓義梵 (1750-1837)	江戸時代 19世紀	紙本墨画	石村コレクション
12	後期 あくび布袋図	仙厓義梵 (1750-1837)	江戸時代 19世紀	紙本墨画	石村コレクション
13	仙厓和尚像	山崎朝雲 (1867-1954)	昭和10年(1935)	木彫彩色	九州大学文学部蔵 (中山森彦旧蔵)